

## H28 東大見学会 企業・大学訪問 感想文

私は今回、東京大学を見てみたいという安易な理由で参加した。しかし、そんな自分が恥ずかしくなるほど、とても濃密な2日間を過ごすことができた。中でも特に印象に残った2つのことについて書きたいと思う。

### ①ディレクトフォース

私がまず驚いたのは今回の会場である笹川平和財団ビルの大きさだ。実際に国際会議が行われる場所だとは聞いていた。しかし、想像をはるかに超えた威厳のある、しかしどこか謙虚な、日本らしい綺麗な建物が現れた。東京に着いてまだ数十分だったが、さっそく東京の大きさを魅せられたように感じた。

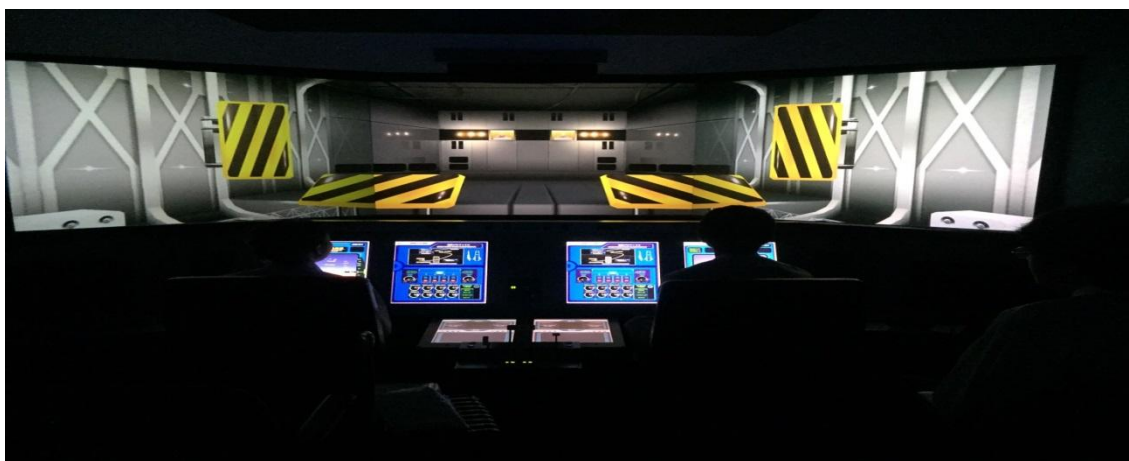
笹川平和財団の理事長である田中信男さんの講演は、エネルギーに関するもので、東日本大震災に関連した興味深いお話をしていただいた。また、グループセッションでは4人の方々から、「世の中で活躍するために大切なこと」についてお話を伺った。その中で私が影響を受けた言葉は2つある。1つ目は青木脛さんの「常に夢中なものをもつ」という言葉だ。青木さんは日本IBM取締役、日本シーベル社長を経て、現在日本データクラフト社長を務めている。つまり、日本の新しいテクノロジー開発の最先端で活躍している方だ。青木さんは、何かに夢中になることで新しい自分を知るという。自分の長所と短所を知っていることが、世の中で活躍するとき武器となるそう。また、そのためには現実には直視する力を養うことが大切だとおっしゃっていた。日本人は謙虚だといわれ、なかなか自分自身の長所に気づかない。実際私も、謙虚なのかどうかは分からないが、長所と聞かれて答えることができなかった。今まで真剣に考えたことが無かったからかも知れない。しかし、自分を他人にアピールするためには長所を理解しておかなければならないと思う。この言葉は、私の考えを大きく変えるものだった。2つ目は吉田文一さんの「私は日本が大好きだ」という言葉だ。吉田さんは海外で国際金融を担当し、日本と取引を行っていた経験がある方だ。そのため世界を複眼で見ることができ、海外から日本を見ている。すると、日本の魅力を感じられるという。その根拠として、日本は世界のランキングで上位に入っている。【領域面積(EEZを含む)9位、人口10位、日本語を母国語とする人口9位、ノーベル賞受賞者人数7位 etc.】また、日本には地下資源が存在し、10数年後には世界有数の資源大国になるという。私は最近、日本のマイナスな話題ばかり聞いていたので、とても驚いた。また、日本にある豊富な地下資源についてあまり知らなかったため、自分の知識の少なさを実感した。しかしそれ以上に、日本が好きだとはっきりおっしゃった吉田さんがとても格好良く見えた。

今回のディレクトフォースを通して、私は世の中で活躍するために本当に大切なことを知ることができた。また、日本の魅力を知った。グループセッションでは、1人20分という短い間だったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。ただ、質問をあまりできなかつたので、もっと質問ができれば良かったと思っている。

#### ②企業大学訪問

私は東京都調布市にある JAXA 調布航空宇宙センターを訪問した。以前から宇宙に興味はあったものの、特に詳しく調べることはしていなかった。だが、この行事で宇宙を最先端と科学技術で研究している JAXA を訪問できると決まり、宇宙について調べる機会を得た。そして、改めて宇宙のおもしろさ、不思議さを感じた。今回の訪問で一番印象に残ったのは、スペース・ミッション・シュミレーターの体験だ。これは、水平隔離のスペースプレーンで国際宇宙ステーションにいくなど、宇宙飛行・操縦を疑似体験できる機械だった。私も実際体験をして、宇宙飛行士になったような錯覚になり、とてもおもしろかった。また、私たちに1つ1つ丁寧に説明して下さった方は全て説明するのではなく、問題を出しながらおもしろく紹介して下さった。なので、少しも飽きることなく楽しく見学することができた。これは、普段では体験できない貴重なものだということもあり、想像以上に濃い時間となった。

見学を行うまでは宇宙に興味があるというだけだったが、詳しく宇宙について知っていくうちに、新しい魅力を知った。そして、将来の進路の選択肢の1つとなった。これは私の中でとてもいい経験となった。



#### ④東京大学見学会

私は今回工学部の説明会に参加した。説明会では、理学部と工学部の違いや、東大工学部の特徴などの説明を聞いた。工学部というと建築学科のイメージが強かったが、建築の話はほとんど無かったので驚いた。またこの説明会でも、私の心に響いた言葉がいくつかあった。1つは「一生懸命やって損はしない」という言葉だ。よく、一生懸命やっても無駄だという言葉聞く。考えてみれば私も無理だと思ったらあきらめていた。知らないうちにこの言葉に影響されていたのかもしれない。だから、最初に聞いたときはあまり理解

できなかった。しかしその後、私は「結果ではなく、一生懸命やったという経験が成長させる」のだと自分なりに理解し、この言葉の重みを知った。もう1つは「競合しない友達を大切に」という言葉だ。競合しない、つまり、将来の最終的な目標が違う友達を持つことで、異文化との出会いにつながるという。人は価値観が同じ者同士で集まりやすい。お互いに共感し合える環境があるのは非常に心地よいものであり、人間にとって大切なものだが、それだけでは客観的に物事が見えづらくなってしまふ。そんなとき、価値観の違う友達がいると、新しい考え方が見えてくるということだろう。このようなことは考えたことがなかったので、これは私にとって異文化との出会いといえるのかもしれない。

また、東大は想像以上に大きく、趣のある、まさに日本トップの大学に相応しい佇まいだった。赤門は思っていたより小さかったのだが、それよりも赤門をくぐることができた喜びでずっと心が躍っていた。そして、このような美しい大学で学べたらと、すこし東大への気持ちが生まれた。

私は今まで工学部に行きたいと思っていたが、まだ知識が浅いことを実感した。そして、大学へ進学することの難しさも知った。しかし、それ以上に大学進学への強い気持ちが生まれてきた。東大は凄いと色々な方が言う。何が凄いのか、私は理解していたつもりだが全くしていなかったことが分かった。百聞は一見に如かず、という言葉を始め感じた瞬間だった。

